

阿 蘇 山

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは、1月20日にレベル2(やや活発な火山活動)から1(静穏な火山活動)に引き下げました。

2 概 況

阿蘇山では、火山性連続微動の振幅は小さく、火口内での土砂噴出の発生もなく、火山活動は静穏な状態で経過しています。火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

3 噴煙活動の状況(図1)

・噴煙は白色・ごく少量で噴煙の高さは概ね200mで推移し、その最高は400mで変化は認められませんでした。

4 地震・微動活動の状況(図1、図3、図4)

火山性地震及び孤立型微動の発生回数は、先月に比べ減少し、火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。

- ・火山性地震の月回数は239回(2005年12月：404回)でした。
- ・火山性地震の震源は、これまでと大きな変化はなく、中岳第一火口付近のごく浅いところに求まりました。
- ・孤立型微動の月回数は1,834回(2005年12月：2,143回)でした。

5 火口や噴気地帯の状況(図1、図2)

中岳第一火口の湯だまりの表面温度は、昨年11月8日以降60前後とやや低くなり、土砂噴出の発生もなく、静穏な状態で経過しています。

- ・湯だまりの表面温度は52～62とやや低い状態で推移しました。
- ・湯だまりの量は約8割で経過し、湯だまりの色は乳緑色から緑色となりました。
- ・湯だまり内の数箇所では噴湯現象を観測しましたが、土砂噴出の発生はありませんでした。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

6 地殻変動の状況(図5)

GPSによる地殻変動の連続観測では、火山活動に起因する変化はありませんでした。

7 地磁気全磁力の状況(図6、図7)

気象庁地磁気観測所による全磁力連続観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした。

資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平17総使、第503号)。

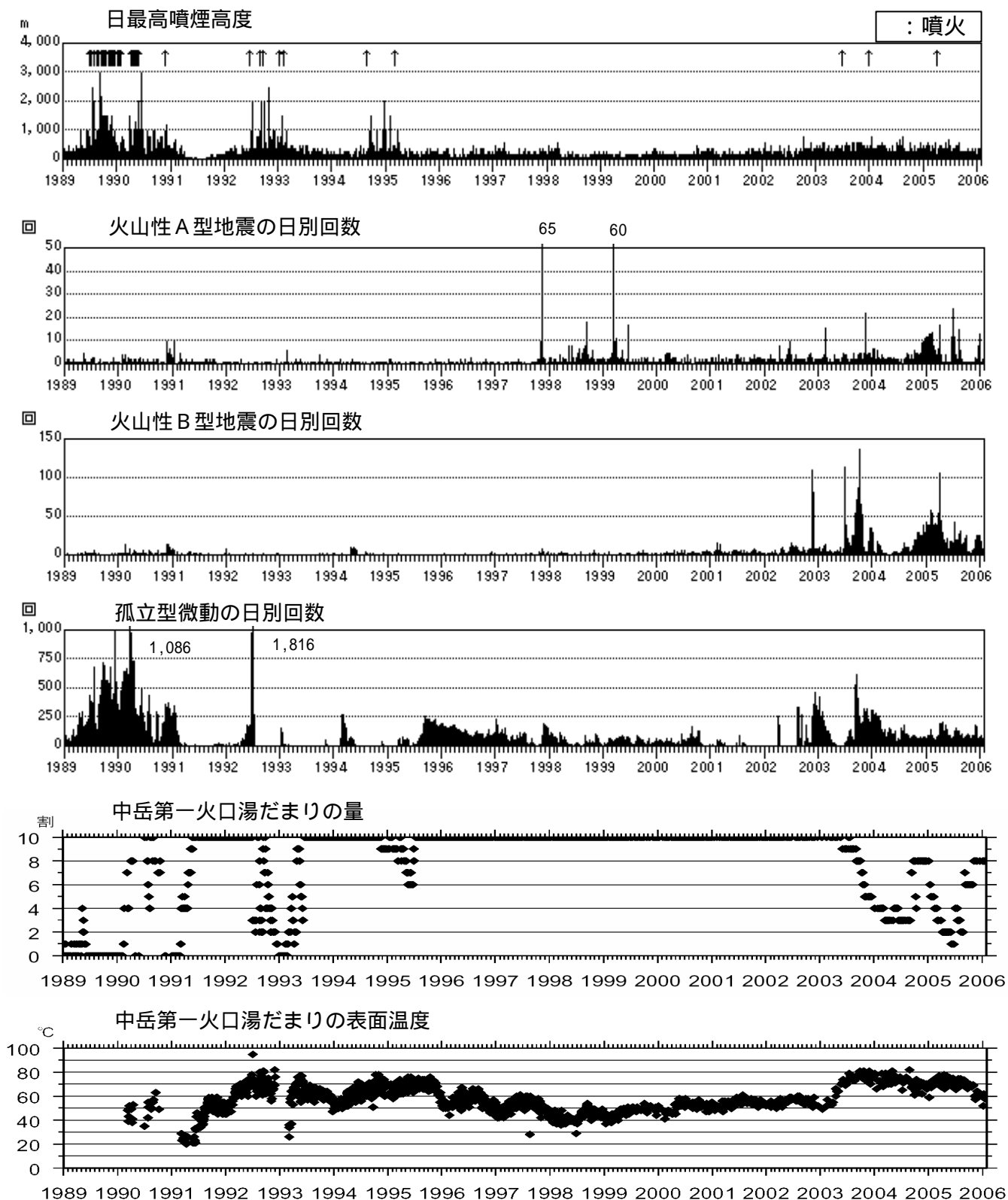


図 1 火山活動経過図(1989 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 1 月 31 日)

噴煙の状況に変化は認められず、高さの最高は 400m でした。
 火山性地震及び孤立型微動の発生回数は、先月に比べ減少しました。

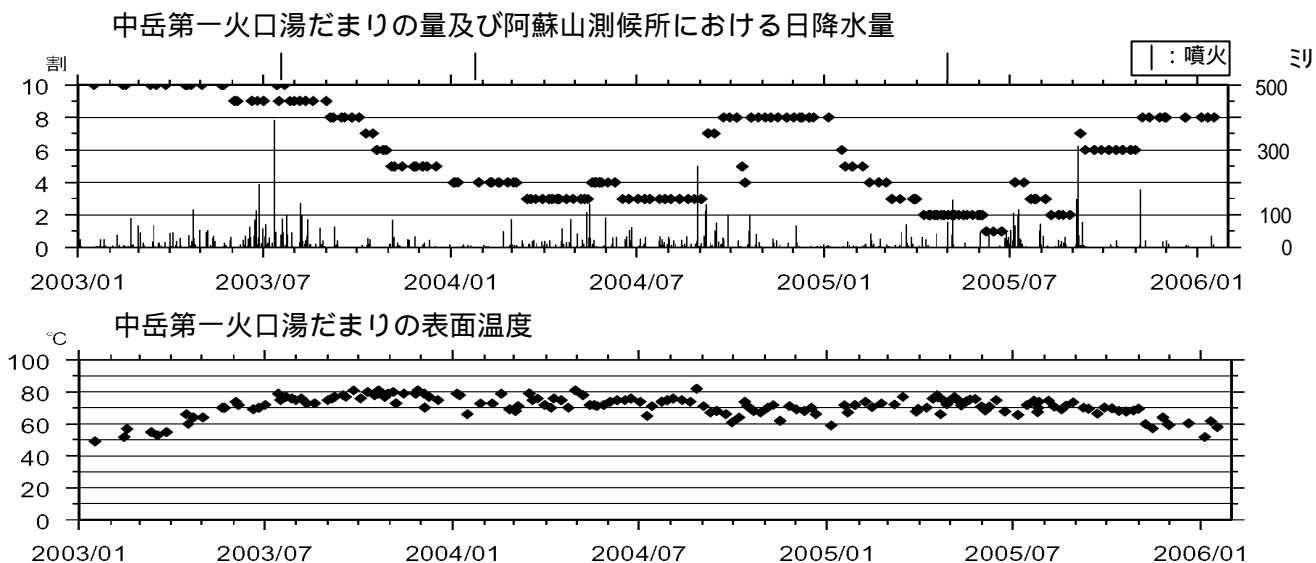


図2 火山活動経過図(2003年1月1日~2006年1月31日)
 湯だまりの表面温度は52~62 とやや低い状態で推移しました。
 湯だまりの量は約8割と変化ありませんでした。

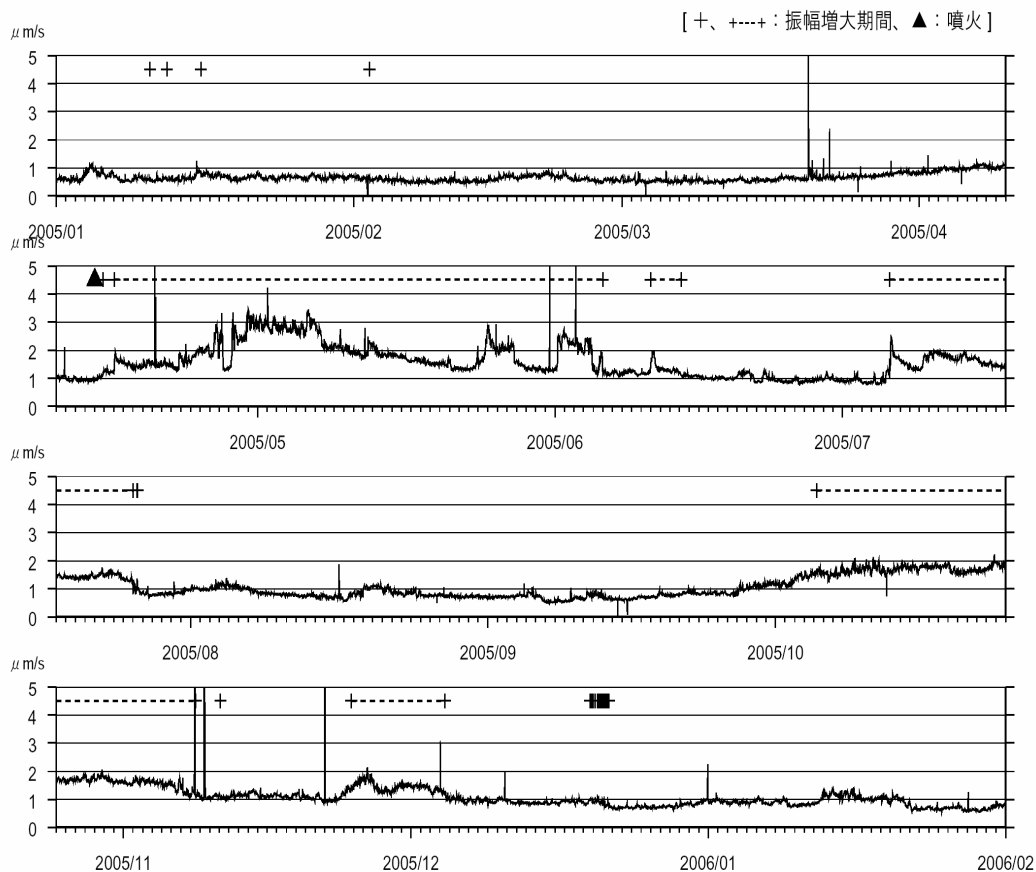


図3 30 分間平均振幅の時間変化(A点南北成分)(2005年1月1日~2006年1月31日)
 2005年4月以降、火山性微動の振幅は時々大きくなりましたが、12月21日以降は小さくなり、その状態が1月も継続しました。

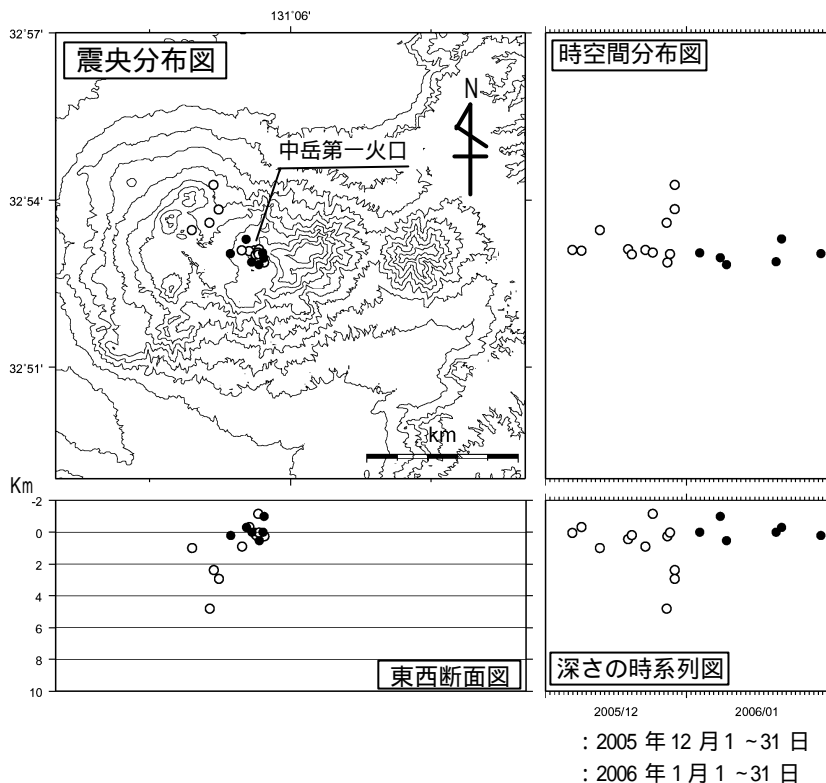


図 4 火山性地震の震源分布(2005 年 12 月 1 日 ~ 2006 年 1 月 31 日)
火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅い所に求まりました。

(本資料は、防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成しました。)

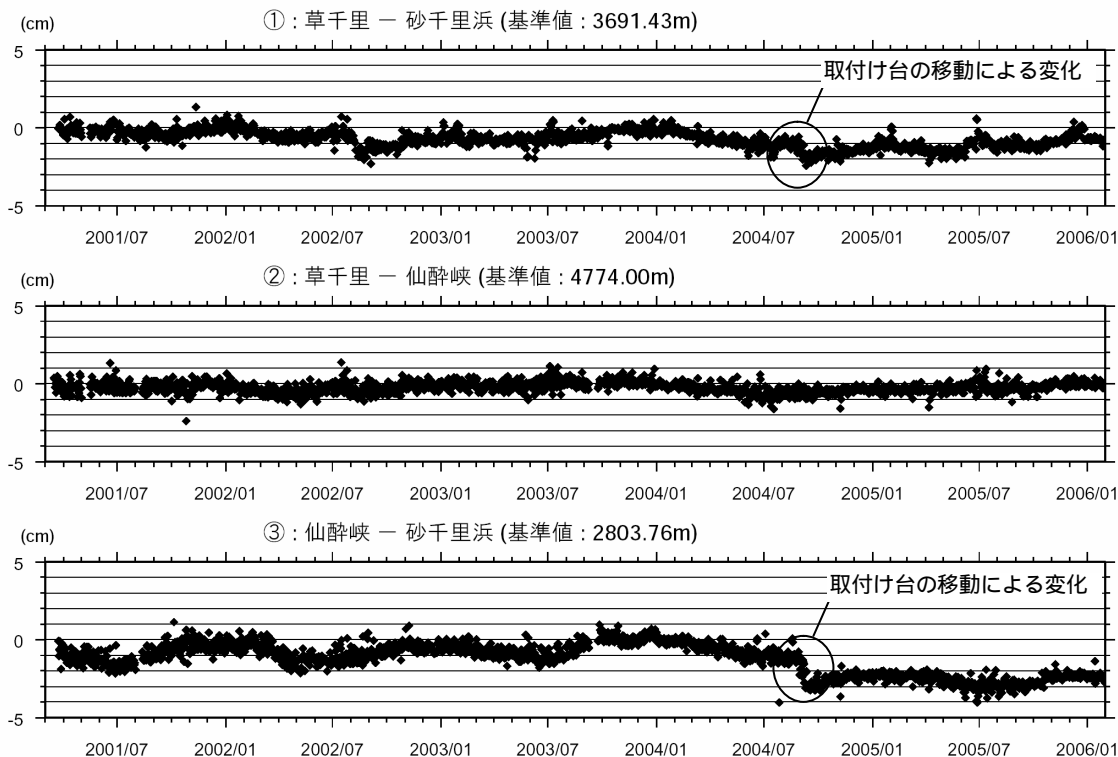


図 5 GPS による基線長変化(2001 年 3 月 15 日 ~ 2006 年 1 月 31 日)
各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした。

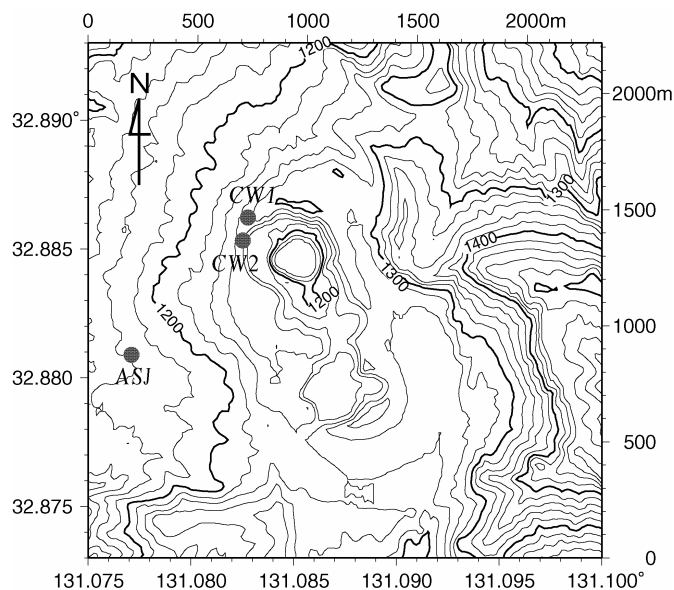


図 6 全磁力連続観測点配置図

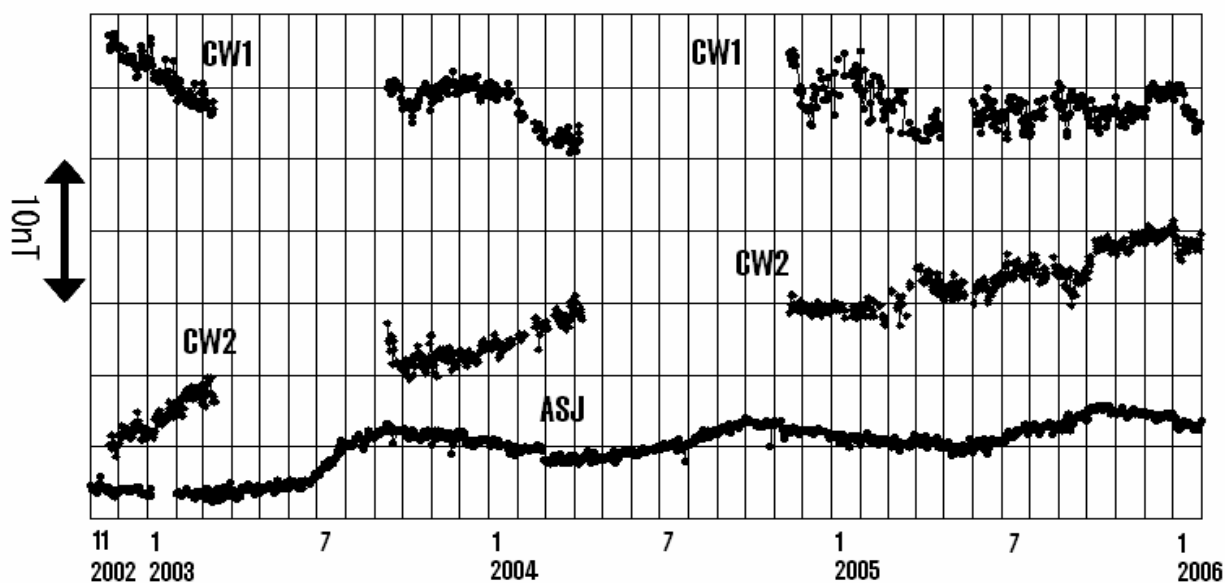


図 7 全磁力連続観測の結果 (2002 年 11 月 ~ 2006 年 1 月)
火山活動によるとみられる変化はありませんでした。

< 補足説明 >

火口の北側観測点で全磁力値に増加傾向 (図中、上向き)、南側観測点で減少傾向 (図中、下向き) がみられた場合、火口直下での温度上昇があると考えられます。

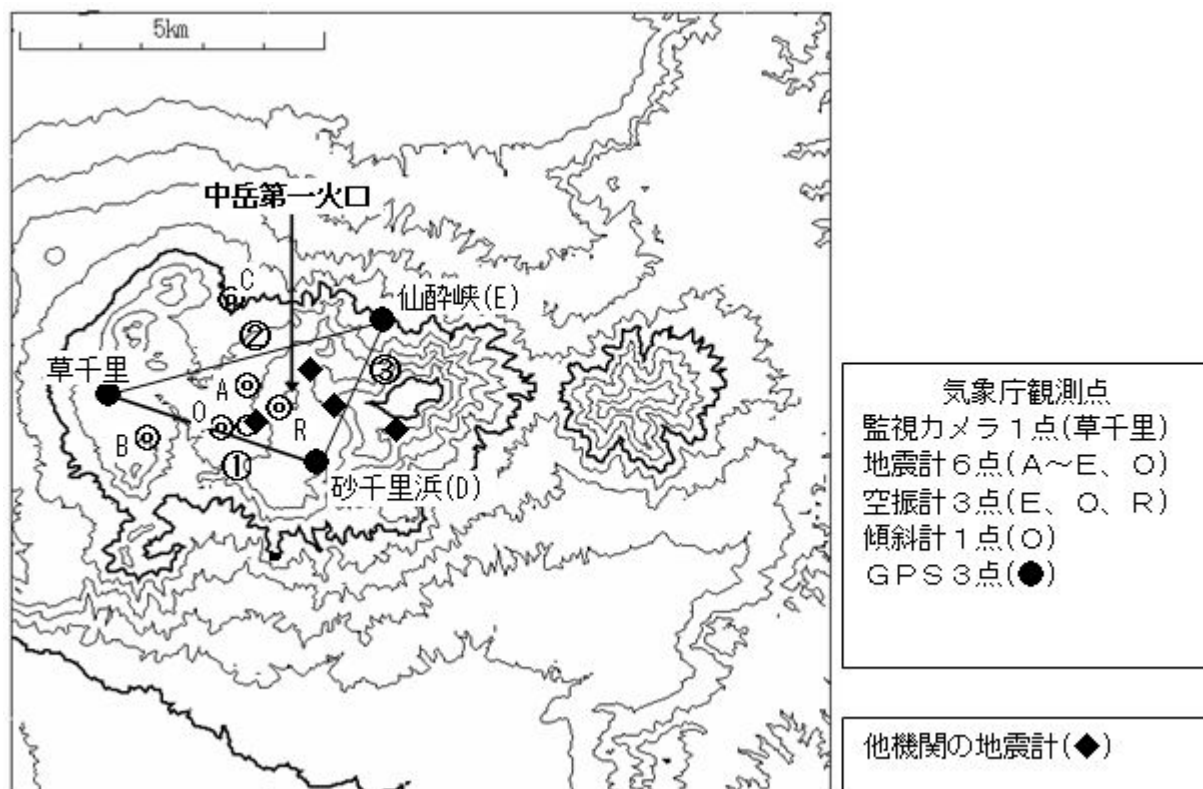


図8 観測点位置図